

〈震災にあたってのアピール〉

2011年 4 月25日

地域構想学科の総力を挙げた地域活動へ諸君の貢献を

宮城豊彦

東北学院大学地域構想学科長

大学が5月9日から再開されます。しかし、東日本大震災の被災地では新緑の時期を迎えても復旧の歩は遅々として続いていると考えて間違いないでしょう。3月11日の地震と津波の発生から2ヶ月も経つと、厳しい被災状況がなお続いている方々がいる一方で、「この災害はどのようなものだったのか」と振り返る方々など、地域の実情や考えが多様化していることでしょう。

我々はどうでしょう。新学年の授業が開始されいつもどおりの学生生活が始まるのでしょうか。苛酷な被災の中心地にある我々は、「キャンパスの学びも大事だが、地域で何か出来ないか」という複雑な思いにあるのではないのでしょうか。私たち地域構想学科の教職員も同じ気持ちでいます。

学科では、震災発生の前から「地域災害脆弱性の克服」についてのプロジェクトを計画していました。これ計画と現状を踏まえて、去る18日に開催した学科会議において、次の2つの企画を、学科の教員と学生諸君の総力を傾注して、大規模に実施することを決定いたしました。地域で役に立つ人材を育成することを学科目標とする私たちは、この企画を授業の一環として意義付けることにしました。文科省も、大学で適切に位置づけられた地域貢献活動の実施を薦めています。また、大学のボランティアセンターの活動の一環でもあります。なお、企画の骨格作りや評価には学外の有識者の参画も求めます。

1. 特定地域での集中的なボランティア活動の実施
2. 津波被災地における地域防災の取り組みの検証調査
3. 気仙沼方面での1.2活動の集中実施

具体的な活動は、新年度の授業開始から態勢を組みます。中心的には2年生の発展実習、3年生の演習を主体に、1年生や4年生にも参加を促し、「実質的に学科の総力を挙げて」の形を作ります。発展実習とゼミナールの担当教員をまとめ役とします。1のテーマは、スポーツ・福祉系の教員が総括し、延べ100名程度の学生諸君の参加を期待しています。2のテーマはそれ以外の教員が携わり、述べ500名程度の学生諸君の参加を期待しています。ただし、諸君の全員が必ず主体的に参加しなければならないというものでもありません。「個別の事情によっては参加しにくい場合もあり得ることを承知しています。」担当教員との間で十分な意思疎通が必要不可欠です。この活動は大学が実施するものですから、それぞれの活動を契機に卒業研究・学術研究に展開することも期待されます。

実施は、相手先機関との調整を経て、前期の時間を数回使います。また1・2回は週末を利用して遠隔地や重点活動地での活動を想定しています。詳細のプログラムは5月の最初の週に提示し、その直後に活動が始まるでしょう。

学生諸君に再度呼びかけます。今こそ東北一番の私学として、地域らしい文武両道の実を挙げたいと思います。宜しく願いいたします。